

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市市長
白井 信文



■ 本市への教育視察が相次いでいます

教育委員会の報告によると、本市の小中学校への大型視察が続いているそうです。最近では、10月7日に富山県議会教育警務委員会の委員長以下7名の議員と同県教育委員会の教育長、次長、参事、小中学校課長など総勢15名が高千帆小学校に視察に来られ、モジュール授業に興味深く参観され、「生活改善学力向上プロジェクト」に大変感心して帰られたそうです。本市の小中学校が全国的にとっても高い評価を受けていることは、市民のみなさんなら、とうにご存じのことと思いますが、このような報告を聞き、改めてその評価の高さを実感しました。

10月18日には、文部科学省初等中等教育局の財務課長が、また11月22日には、広島県教育委員会と同県公立学校施設整備期成会の29名が、厚陽小中連携校を視察に来られたそうです。呉市や広島市などは小中一貫教育の先進地として全国的に有名ですが、それでも厚陽小中連携校のソーシャルルーム構想（教室を約1.5倍広くし「教室は学びと生活の共有空間」）や校舎全体の木質化など、本市独自の教育理念に基づく教育施設のあり方に注目されたためです。

厚陽小中の施設一体型連携教育は、今年から「地域のまちづくり」との融合にも取り組み、周囲からあたたかく注目されているようで、子どもたちが「地域の一市民」として成長していく姿も楽しみです。

ちなみに、本市の教育長は、招かれて教育講

演会に出かける機会が多いのですが、他県に出かけたときは、講演テーマに限らず、本市を大いに宣伝（特に観光）してくれているそうで、市長としてありがたく思っています。

■ 当面する行政課題など

平成26年4月から、定年退職する職員の再任用制度を始めます。年金支給開始年齢が引き上げられたことのおおりで、制度の導入が不可避免になりました。再任用職員には、これまでの知識と経験を生かし、これまでと同様に戦力として、まちづくりに参加してくれることを期待しています。

同じ平成26年4月から、本市職員の給与を正常化する予定です。平成18年度から本市の財政破綻を回避するため、職員みんなが協力してくれていましたが、ようやく終わりの日を迎えることができそうです。よく我慢し辛抱してくれました。ちなみに、東日本被災地支援のため、さらに毎月一律2%（特別職は5%）カットを上乘せしていますが、これも3月末で終わりにします。

市議会議員・市長等特別職・各種行政委員の報酬等については、平成26年4月以降の見直しを、現在、それぞれの審議会に諮問しています。答申が出ましたら、そのままの内容を議会に条例改正案として出す予定です。審議会委員などとして市民に支払っていた日当額についても、同時に改正の手続きを取りたいと考えています。